

論述試験（総合問題）〔教育・心理・障害に関する内容〕

次の文章を読んで、下記の問いに答えなさい。（日本語で解答すること）

2030 年の社会と育成を目指す資質・能力

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となっており、しかもそうした変化が、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子供たちの生き方に影響するものとなっている。社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば、難しい時代になると考えられるかもしれない。

しかし、このような時代だからこそ、子供たちは、変化を前向きに受け止め、私たちの社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしたり、現在では思いもつかない新しい未来の姿を構想し実現したりしていくことができる。

この答申を受けて改訂された学習指導要領では前文が設けられ、育成を目指す児童生徒の姿について、以下のとおり記載しています。

これからの学校には、(略) 一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

出典：文部科学省（2021）「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和3年3月版）」. p.3 一部改変、抜粋

「令和の日本型学校教育」の構築に向けた ICT の活用に関する基本的な考え方

これまで繰り返し述べてきたように、「令和の日本型学校教育」を構築し、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためには、学校教育の基盤的なツールとして、ICT は必要不可欠なものである。我が国の学校教育における ICT の活用が国際的に大きく後れをとってきた中で、GIGA スクール構想を実現し・・・これまでの実践と ICT とを最適に組み合わせることで、これからの学校教育を大きく変化させ、様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことが必要である。その際、PDCA サイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行うことが重要である。

ICT が必要不可欠なツールであるということは、社会構造の変化に対応した教育の質の

向上という文脈に位置付けられる。すなわち、子供たちの多様化が進む中で、個別最適な学びを実現する必要があること、情報化が加速度的に進む Society5.0 時代に向けて、情報活用能力など学習の基盤となる資質・能力を育む必要があること、少子高齢化、人口減少という我が国の人口構造の変化の中で、地理的要因や地域事情にかかわらず学校教育の質を保障すること、災害や感染症等の発生などの緊急時にも教育活動の継続を可能とすること、教師の長時間勤務を解消し学校の働き方改革を実現することなど、これら全ての課題に対し、ICT の活用は極めて大きな役割を果たし得るものである。

-----（中略）-----

さらに、学校における ICT 環境の整備とその全面的な活用は、長年培われてきた学校の組織文化にも大きな影響を与え得るものである。例えば、紙という媒体の利点や必要性は失われない一方で、デジタルを利用する割合は増えていくであろうし、学校図書館における図書等の既存の学校資源の活用や充実を含む環境整備の在り方、校務の在り方や保護者や地域との連携の在り方、さらには教師に求められる資質・能力も変わっていくものと考えられる。その中で、Society5.0 時代にふさわしい学校を実現していくことが求められる。

出典：中央教育審議会（2021）『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』（中教審第 228 号）、p.30-31 一部改変、抜粋

児童生徒の特性に応じたきめ細かな対応

不登校児童生徒、障害のある児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒について、学校間、保護者、関係機関と児童生徒の状況を共有し、支援しやすい環境を構築するため、統合型校務支援システムの活用や帳票の共通化などを通じ、個別の支援計画等の作成及び電子化を進めることが必要である。例えば、都道府県やシステムの開発業者に対して、特別支援教育に配慮したシステム開発を促していく必要があり、個別の教育支援計画の項目の標準化が必要との指摘も踏まえ、今後、文部科学省において、速やかにその参考となる資料を示すなど、支援を進めていく必要がある。

また、こうした児童生徒の理解度や特性に応じた学習活動を進めるため、教師やスクールカウンセラー等による遠隔技術等を用いた相談・指導の実施や ICT を活用した学習支援、デジタル教材等の活用を図るべきである。

さらに、障害のある児童生徒については、ICT の活用が有効であることから、その整備を適切に行うことが重要である。また、ICT を活用した学習支援と対面指導や教師を派遣する形を組み合わせた訪問教育を受ける児童生徒の学習機会を充実すること、遠隔技術を活用した自立活動の支援について実践的に研究を進めることが必要である。加えて、音声読み上げやルビ振り等の機能を持つ学習者用デジタル教科書について、障害のある児童生徒や

日本語指導が必要な児童生徒等に対する活用を促すことも必要である。

出典：中央教育審議会（2021）『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）』（中教審第 228 号），p.79 一部改変、抜粋

ICT 活用例①

（この部分は著作権の都合により公開できません。）

出典：「闘病中の小 1 女児、教室に分身ロボット みんなと遊べた」朝日新聞デジタル、2018 年 11 月 13 日、<https://www.asahi.com/articles/ASLC37KZ1LC3UTIL01H.html>（2026 年 6 月 16 日閲覧）。一部改変、抜粋

ICT 活用例②

(この部分は著作権の都合により公開できません。)

出典：「心の健康観察を ICT で変える 1 人 1 台端末で可視化する『小さな SOS』と早期支援のポイント」日本教育新聞電子版 NIKKYOWEB、2026 年 2 月 7 日、<https://www.kyoiku-press.com/post-306370/> (2026 年 6 月 16 日閲覧)。

問.

文章全体を踏まえた上で、ICT 活用例①及び②の事例において、ICT が学校教育の中でどのように必要不可欠なツールとして機能しているのかを 400 字から 450 字で説明しなさい。